

## 1.1 林床植物の管理

### (1) 明るくなると元気になる植物

ヤマユリ、ホタルブクロ、ワレモコウ、アキノキリンソウ、オトコエシ、ハギ類、アザミ類など伐採跡地に生える植物は、明るくなると元気を取り戻します。

### (2) 明るくなると傷む植物

暗い樹下に生える植物では、成長が阻害される現象がおきます。アオキがその例です。また周辺の木が伐られると夏の西日で樹皮がやけどをして壊死するものもあります。ケヤキ、ミズキは樹皮が薄くこの傾向が強いので、不用意な周辺部の伐採は気をつけます。伐採してしまった場合、幹の南西側にそだを巻つけるのは効果があります。

### (3) 新しい芽生え

埋土種子も発芽を始めます。埋土種子は30～50年も生きていることが知られています。

### (4) 根や走出枝による増殖

高木性の樹木ではニガキ、ウワミズザクラなどは根から新しい芽を出して増えてゆきます。低木ではモミジイチゴ、クサイチゴなどの木いちご類にその性質が強く、地上部の刈取りだけではなかなか除去させることができません。

### (5) ササの管理

年に2～3回の下刈りによって他の植物と同じ高さになり、双方が共存できます。場合によっては選別的に刈り取ることもあります。



急に周辺が伐採され樹皮がやけどをおった状態



クサイチゴを根から掘り取る



ササの手作業による刈り取り後1年経過